令和６年度　学校自己評価（年度末反省）

基本方針　安全・安心で生徒職員ともに元気な学校づくり
ＳＤＧｓの理念を踏まえて、生徒の長所を引き出し地域社会に貢献する学校づくり

重　点　目　標	具　体　的　目　標
1　基本的生活習慣を確立させるとともに、粘り強い指導で規範意識の醸成を図る。 2　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、基礎基本の学力定着を図る。 3　社会の担い手となるために、キャリア教育の一層の充実を図る。 4　部活動や地域活動などへの積極的な参加を促すとともに、外部人材の活用や地域貢献を図りながら、本校の取組を中学校や地域に積極的に発信する。 5　教職員間のコミュニケーションや連携を図り、多忙化解消や不祥事防止に努める。	(1) 生活指導 規範意識の醸成、明るく元気な集団の育成、厳しくも暖かく粘り強く ①基本的生活習慣の確立　②元気なあいさつ・返事 ③ルールの遵守、マナーの向上、ＴＰＯに応じた行動の確立、丁寧な言葉遣い ④身だしなみ指導の徹底 ⑤保護者との早めの連携 ⑥生徒の動向、多様化する生徒への対応の充実 (2) 学習指導 基礎基本を徹底し、自ら学び、自ら高める態度を育成する ①授業規律の徹底　②授業力の向上、授業改善　③家庭学習の定着 ④「総合的な探究の時間」の指導プロセスの明確化とプログラム化 ⑤スクールエンジンの運用の充実 (3) 進路指導 自分の持ち味を知り、夢を実現するための努力をさせる ①３年間を見通したキャリア教育の推進 ②「社会の担い手となること」を基本とした就職指導の充実 ③進学指導の充実と大学入試改革の研究 (4) 部活動・特別活動・地域貢献活動 心と身体の鍛錬、成就感と達成感を体感 ①生徒の実態や活動状況を踏まえた部活動の整理や予算の見直しによる部活動の充実 ②生徒自ら参加する意識づくりと感動ある行事づくり ③生徒自らの企画運営による生徒会活動、委員会活動の充実 ④ボランティア活動等の地域連携・地域貢献の推進 (5) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害の防止 ①職員の和による強固な協力体制 ②タイムリーな報告・連絡・相談による情報の共有化と業務の効率化 ③在校時間の縮減、ストレス解消、余暇時間の確保と活用による健康管理 ④日々の意識と声かけによる不祥事の防止 (6) その他 ①清掃場所や清掃方法の工夫による環境美化 ②積極的な情報発信（ホームページ、インスタグラムのタイムリーな更新）や地域への広報 ③様々な場面を利用した知多半島内の中学や地域との連携の推進 ④同窓会との連携 ⑤自分の学校という思いを持ち、生徒募集回復のための知恵を出し合う

担当	重　点　目　標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
総務	①ＰＴＡ活動をより充実、活性化させる。	・ＰＴＡ活動の様子を保護者に向けて積極的に発信する。	B	・主なＰＴＡ活動となる黒潮祭については発信できたが、体験型研修講座には参加者が少ないため、次年度は早期から発信し、参加者を増やしたい。
	②内海高校の魅力を高め、発信する。	・きめ細やかな情報発信をしていく。	B	・行事を中心に学校生活全般をインスタグラムで発信できた。内海高校の魅力をより高められるよう工夫する。
教務	①落ち着いた学習環境を作り、基礎基本の定着を図る。	・授業規律の確保に努め、生徒が落ち着いて授業に向かう環境を作る。 ・生徒の学習意欲を喚起する内容の授業や課題を設定する。	B	・授業中の居眠りや私語、忘れ物等授業規律に反する事項があった場合は教科担当が記録し、違反の数に応じて指導を行った。学期が進行するにつれ、違反する生徒が少なくなり、落ち着いた環境を整備することができた。 ・生徒の学習アンケートの結果から、学習意欲はあるが、それが家庭学習に結び付いていないことが見られた。ICT 機器を効果的に活用し、学習意欲を高めるとともに、家庭学習できる環境を整えたい。
	②新しい教育課程に対応した教育活動の円滑な実施を図る。	・観点別評価の円滑な実施のためのシステムをつくる。 ・校務支援システムを有効的に活用し、出欠・成績の管理を行う。	A	・今年度より、全学年で校務支援システムを導入し、欠課時数が一括で管理できるようになり、業務の軽減となった。また、成績処理の簡易マニュアルを作成することで、成績入力等を簡素化できた。
生徒指導	①　基本的生活習慣の確立を図る。	・欠席・遅刻を減少させる。授業に集中できるよう体調管理を意識させる。	B	・欠席や遅刻の数としては昨年より増加してしまった。しかし生徒それぞれの事情に応じて声掛けを工夫したり家庭と連携したりすることができた。
	②ルールの遵守、マナーの向上を図る。	・ルール・マナーを遵守し、ＴＰＯに応じた行動ができるよう促す。	A	・注意を受けず自然とルールを守ることができる生徒が増えた。状況に応じて自ら考えて行動したり、人のために行動したりできるようになることが今後の課題である。
	③学校行事、部活動、地域貢献活動の活性化と充実を図る。	・生徒が充実感・達成感を得られる工夫をする。	A	・各行事では生徒が前に立って主体的に進めることが増え、行事の内容の質が上がってきた。またそうした行事での充実感や達成感が、生徒の問題行動の未然防止につながっていると考える。
		・部活動への参加率向上を目指し、やめさせない工夫をする。	B	・部員数がかなり少なく、活動に支障のある部活がみられる。生徒が技術の向上だけでなく、部活動に居場所を感じたり充実感を感じる環境をつくることが課題である。
	④安心安全な学校生活を推進する。	・いじめを防止するため、組織的に対応する。	A	・小さな人間関係のトラブルをきちんとキャッチし、職員間で共有、対応することができている。そのため大きないじめや問題を未然に防止できている。

		・多様化する生徒への対応を推進する。	A	・授業や行事等を通して、生徒の個性を発見し、良さを認め伸ばすような働きかけができている。課題のみられる生徒に対しては、職員間だけでなく家庭とも連携して対応することができている。
進路指導	①進学指導･就職指導を充実させる。	・進学･就職両面において、生徒の基礎学力の向上の工夫と教員間の情報の共有化を図り、適切な指導ができるようにする。	B	・進学指導として、希望校への合格を目標に補習や対策講座を実施した。また、補習と外部の模擬試験を連携させ、学習をすれば成果が出るということに重点を置き、基礎学力の向上を図った。今年度は15名全員が希望校に合格した。 ・就職指導として、教員間で事業所に関する情報共有を図り、生徒の受験先の検討と合格への指導を行った。また、３年生全員に対してＳＴ後のテストや週末課題を課し、基礎学力の向上を図った。今年度は、１次内定率が96%であった。
	②低学年から進路意識を持たせる。	・進路行事を積極的に活用する。	A	・インターンシップ、大学や企業の見学などを通じて、低学年から進路意識を持たせるようにした。特にインターンシップについては、充実した体験となるように、事前に、挨拶やマナー、時間厳守などの大切さを重点的に指導した。参加生徒（１年30名、２年16名）はそれぞれの事業所（10箇所）で概ね良い評価をいただいた。 ・今年度も、愛知県と美浜町商工会議所が開催した、産学連携地域活性化事業に１年生が参加した。参加した生徒は地元企業を知り、進路について考える良い機会となった。今後もこうした事業を積極的に活用していきたい。
保健厚生	①ボランティア活動の継続と充実を図る。	・ボランティア活動を充実させる。	A	・地域の清掃活動では海岸清掃と学校周辺の清掃を行った。大地の丘ボランティアは、教員が交代で引率するようになったので、多くの先生方にボランティアの実態を見ていただくことができた。 ・高校生ボランティアアワードでは、UFFの生徒たちが主体となってポスターを作成し、発表することができた。 ・今年度は南知多町防災交通課と内海山海防災連絡協議会と連携し、黒潮祭で防災に関するブースを作成した。さらに美浜町障害児ふれあい運動会の運営ボランティアにも７名参加し、活躍できた。
	②生徒委員会活動の充実を図る。	・美化委員会の活動で生活環境に対する意識の向上を図る。	A	・美化委員を中心に、校門の花壇に季節の花を植えて、除草、水やりの管理を続けることができた。

		・保健委員会の活動で自らの身体や、健康情報に関心をもたせるように工夫する。		・本校の健康課題の解決のため、保健委員会による生徒目線での保健だよりの作成ができた。 ・学校保健委員会に参加して、健康課題の解決に向けての話し合いができた。
	③相談活動の充実を図る。	・スクールカウンセラーと連携し、相談活動を行う。	B	・学年団と連絡を密にして、必要としている生徒に カウンセリングを受けさせることができた。
担当	重　点　目　標	具体的方策	**評価**	反省及び次年度の課題
1年	①規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図る。	・ルール・マナーを守らせる。	A	・高校入学当初からルールの周知徹底を心掛けた。２学期頃からルール違反による生徒指導は減少し、３学期はあまり見られなかった。９月に行われた野外活動でもルールやマナーを守った行動を見ることができた。
		・生活リズムを整えさせる。	B	・GW、夏休み、冬休みといった長期休みに毎回生活記録簿の課題を実施し、それをもとに面談で確認した。生活リズムの乱れている生徒が多いが、反省と改善につなげている生徒を多く見ることができた。来年度も引き続き生徒への声掛けを行っていく。
	②学習習慣の充実を推進する。	・提出物・課題の提出期限を守らせる。	B	・定期考査や長期休みの課題の提出期限を守れていない生徒は減ってきたが、全員提出には至らなかった。 ・提出期限を守れなかった生徒にはその都度に面談を実施し、期限を守れるようになるために必要なことをともに考えた。来年度も引き続き生徒への声掛けを行っていき未提出ゼロを達成する。
2年	①進路実現を意識した行動を推進する。	・自己理解、他者理解を深める。	A	・行事を中心に自己理解・他者理解を促す声掛けや振り返りを実施した。声掛けに対し直ぐに理解できていない場合もあったが、繰り返し行うことで自他を理解している様子が多く見られるようになった。 ・次年度は自己理解をより一層深めさせ、自分に合った進路決定へとつなげさせたい。
		・規範意識の高揚、皆勤率の向上を図る。	B	・節目節目に自他を尊重させる声掛けを行い規範意識の高揚に努めたことで、多くの場面でルールやマナーを意識した行動をしている様子が見られた。 ・皆勤の人数は 11／39 人（昨年度 11 人）となり昨年度と同じ人数となった。学年の欠席合計数は減少しているが、体調を崩して欠席する生徒はまだまだ多かった。次年度は体調管理を促し、休まず学校生活を送ることのできるようにさせていきたい。

	②コミュニケーション能力の育成を図る。	・ＴＰＯに応じた言葉遣いを意識付けさせる。	B	・相手より先に挨拶を行う生徒が増え、相手を明るい気持ちにさせる挨拶をする生徒もいた。 ・敬語を上手く使えない生徒と自分の考えを言葉にできない生徒がまだまだ多いので、次年度の課題である。
３年	①進路の実現を図る。	・基礎基本を大切にし、基礎学力の向上を図る。	B	・朝の学習時間を利用し、就職・進学試験に向けた問題集に取り組み、基礎学力の向上を図った。就職試験においては基礎学力の対策の効果を出すことができたが、大学共通試験などには十分対応できなかった。１・２年時の基礎学力の積み上げとその発展が重要であると考える。次年度以降は低学年時の基礎学力向上を目指したい。
		・進路意識を高めさせ、進路指導を充実させる。	A	・各種ガイダンスや黒潮タイムを利用して進路意識の向上に努めた。就職・進学の１次内定（決定）率は96%であった。
	②信頼される社会人として必要な能力や習慣の育成を図る。	・皆勤率の向上を図る。	B	・皆勤の重要さについて折に触れて伝えたが、皆勤率は向上しなかった。時代としても無理やり学校に来いと伝えるのは難しく、指導の方法に工夫が必要である。
		・身だしなみルールの徹底を図る。	B	・校則の改善、見直しの流れにより、生徒自身が考えて身だしなみを整えることができた。 ・一方で期日などをしっかりと確認し準備するといった行動ができない生徒への働きかけが必要となってきている。
		・コミュニケーション能力の育成を図る。	A	・生徒同士のコミュニケーションは活発になっており、問題が起こっても生徒間で解決がされていたり、トラブルになった時には教員に相談するなどの動きがみられた。これは、どのようなアプローチで実現されていったかが不明確なため、次年度以降に活かすことが難しい。